

三斗委 学闘争

高斗委 三斗委

大学の主体者は誰であるか。無言のうちに、
現在、日大においては古田理事長が主体者となつてい
る。学闘とは、教授会のものでなく、ましてや一部理事者達のものでない。
学闘においてはロソクアウト体制はまさに日大の私物化の好例である。
学闘の方針をおしつけている。
学闘は、僕らは学なる管理物ではない。

現在、商学部において学生会館が一、二号館裏に看々と完成してつある。
彼々にどうして学生会館とは何であらう。

それは、学生の学生であるために必要不可欠なる自主的な学闘。サトウキ等々
の研習場前であると同時に、自からの主体性を確立する場であるし、また
態度発表、研究発表をする自由を保障する場所であらねばならぬ。

それは、一部でクドや、右翼どものスラム化した、寝るための宿でもないのは
無識である。
ミフ一度、声を大にして言おう。

大学の主体者は我々学生である。
だがしかし、大当当局は、商学部を構成している我々学生に対して、ただの一
編の広報を知らせてにすぎない。

この中に、我々は、商学部当局の我々学生に対する姿勢をみる事ができる。
当然のこととして、学校当局は、我々に対し説明しなればならぬし、質問
に対しても誠実に答える義務があるであらう。

我々は要求している。我々は、
我々学生の前で、学生会館に対する十分でかゝ納得のいく説明と、我々の賛同す
る場を商学部当局に対し要求しよう。

その場において、なぜこのように形のものになつていったのかということも
適じ、その裏にある学校当局の欺瞞性を追求しよう。日大闘争の本質を明確
にしていくであらう。

商学部のすべての学友諸君！
我々、商学部斗争委員会、三年生斗争委員会、学校当局に対し、学生会館につ
いての説明を聞くことを要求する。

学生の納得するような回答を勝ちとらうではないか！
この問題について、商学部斗争委員会は、商学部において、唯一斗争部隊とし
て、責任をもち行動していくであらう。

全ての学友諸君は、オレンジのヘルメットの基に総結集せよ！